

安全作業手順書【コンクリートキャンパス設置工】

		見積もり基準をした危険性の評価			
		重大性(B)	○ 軽微 (不休と休業3日以内)	△ 重大 (休業4日以上)	× 極めて重大 (死亡・障害が残る)
可能性(A)	○ ほとんど起こらない (5年に1回程度)	○○ (極めて小さい)	○△ (かなり小さい)	○× (中程度)	
	△ たまに起こる (1年に1回程度)	△○ (かなり小さい)	△△ (中程度)	△× (かなり大きい)	
	× かなり起こる (6ヶ月に1回程度)	×○ (中程度)	×△ (かなり大きい)	×× (極めて重大)	

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例			
危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現時点では不要なし (標準作業)
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作成日・ 改正日	2025/4/1 (前回改正：2024/4/1)	現場名	東名高速道路(豊田IC~春日井IC) 名古屋第二環状自動車道 (名古屋IC~飛島北IC,有松IC~上社JCT)
機器工具 ・車両	スコップ、サンダー、小型移動式クレーン、清掃用具一式	保護具	ヘルメット、安全チョッキ、安全くつ、保護メガネ、切創作業用手袋、皮手袋、墜落制止用器具

作業区分	作業手順・作業内容	急所
準備工	<p>作業確認 作業の打合せ(KY)を行なう 作業員の役割(運転手、助手)を決める 作業場所及び車線を確認する 交通規制状況を確認する ケーブル近接協議の内容を確認する</p> <p>使用機械、工具等の点検を行う</p> <p>しらすだーの動作確認及び点検を行う 小型移動式クレーンの点検を行う</p>	<p>作業員全員で 免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って 上下、kp等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように 必ず当日の規制簿を使用して 試験を伴う場合は協議日を確認して</p> <p>作業前に</p> <p>朝礼時に作業員全員で毎日動作確認をする 手順書に則り</p>

危険ポイント		リスクの見積り			安全対策(危険度2以下へ)			リスクの再見積り		
(〜なので〜になる)		(A)	(B)	リスク	(私達はどうする)			(A)	(B)	リスク
手順を間違えて思わぬケガをする 免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう		△	×	4	全員で手順書、KYの内容を周知する 乗車時に必ず免許区分明示車両ステッカーを確認する			○	○	1
/ / / / /		/	/	/	/ / / / /			/	/	/
協議承認日以前に作業を行ってしまう		△	×	4	作業日と協議日を照合し、確認を行う 作業前に必ず道具、工具、機械類の点検を行う 刃の可動部、連結部はレンチ等の工具にて緩みがないことを必ず確認し、始動確認を行う。			○	○	1
作業中に機械が故障し、思わぬケガをする		△	×	4	/ / / / /			○	○	1
電池切れて緊急時、逃げるのが遅れる		△	×	4	毎日動作確認をし、電池が減ったら交換する			○	○	1



車両確認 作業車両準備 作業車両点検 出発準備 出発 規制内進入 車両移動 停止 逃走防止	25.車両回送手順書に則る									
---	---------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

使用機器等	車両から必要機械を降ろす	①手袋などを着用して ②手・指が挟まれに気をつける。声かけ、合図をして	①荷台から飛び降りて怪我をする ②手・指が挟まれて怪我をする	△	△	3	無理な搬出はせず、サイドカバー・タイヤ等安全な足場から車両に正対して昇降する。飛び降りない。	○	△	2
試験及び立会い	埋設物の確認を試験にて行い、立会いを受ける	試験がある場合は試験作業手順書に則って	試験作業手順書に則る							
現場状態確認	親綱を張り、墜落制止用器具を装着する 外気温の確認をする	作業現場2m以上の箇所では必ず コンクリートキャンパス養生温度0℃以上を確認して	/ / / / /	/ / / / /	/ / / / /	3	事前に天候に十分気をつけ、場合によっては中止する	○	○	1
準備作業	必要箇所の事前草刈りを行う 土砂、土嚢等で不陸処理を行う	草刈り手順書に従って 設置箇所との線形に応じて	草刈り手順書に則る							
設置作業	小型クレーン等を用いて敷設材料を現場に搬入させる	①規制の範囲内で ②クレーン使用時は手順書に則り	不陸状態のまま施工し、窪み部分から劣化が進行する 重荷物を人力で運搬し、身体を痛める	△	△	3	必ず作業前に現場を確認し、土砂等で不陸処理する	○	○	1
	ハサミ、カッター等でシートを加工し バンド、ビスで張り合わせる 最低でも50cmづつから離し杭を打ち込む 杭で飛散防止対策の仮押さえをする	①施工幅を確認し、構造物、付属物に合わせて ②ケーブル埋設箇所は、埋設標が表面に出るように ケーブル埋設ラインをマーキングし 本押さえの前に現場で設定した、割付け、ラップ長を確認して	施工時にキャンパスのセメントを吸引してしまう / / / / / 杭を打ち込む際に、誤って工具が手元に当たり怪我をする / / / / /	△	×	4	キャンパス取扱時は必ず保護マスクを着用する / / / / / 半分ほど打込んだ後は、手を添えて慎重に杭を打ち込む / / / / /	○	○	1
端部処理	フットロープを用いて、固定する キャンパスを10cm程地面に埋め込み処理をする 端部に覆うようにアスファルトシールを張り付ける	強固な構造物で、平面となる箇所では 土工部の端部は アスカーブに固定する場合は	固定先の構造物が脆く、アンカー打込みにより破損させる / / / / / シールの受け手作業員が、バーナーにより負傷する バーナー使用時に火災が生じる	△	△	3	状況に応じてバンドで固定させる等別の方法を検討する / / / / / 皮手袋を着用し、合図を行い慎重に設置作業を行う 使用時は近くに消火器を配置する	○	○	1
散水	少しずつ散水する 下流側に給水マットを設置する マット等を用いて、セメントの流水対策を行う 十分に散水してできているか確認する	①養生マットで養生し、セメントが流れ出さないように ②水の飛散により周囲に影響を及ぼさないか十分気をつけて 設置箇所が傾斜の場合、 端部からの水の流出による影響が考えられる場合 設置箇所付近に排水溝、U字溝がある場合は 目視及び表面の質感を素手で確認して	過剰散水により、キャンパスの品質が落ちる 風や手元操作の狂いにより、車両や人に水が飛散する 隣接道路に水が過剰に流出し 一般車両や人に飛散する セメントが側溝に流出し、管の詰まりを起こす 十分な散水が得られず、品質が落ちてしまう	△	△	3	セメントの流出具合を確認しながら散水する 現場状況に合わせてシートで覆うなどして対策する 現場状況に応じて、吸水マットを使用する 吸水マット等で確実にセメント流出対策を行う 必ず目視及び素手での感触により品質を確認する	○	○	1
				△	×	3		○	○	1
本作業	仕上げ 養生材や道具を片付ける 清掃道具で場内清掃を行う 場内状況及び清掃状況を確認する 後処理 運転日報・車両使用日報を作成する	車線側、他の作業員等十分周知に注意して 車線側への飛散に十分気をつけて 使用道具や、検測道具など忘れ物ないように 責任者への報告・確認も忘れずに	片付け作業やクレーン操作作業が重複し 作業員同士や、クレーンとの接触を起こす 掃き掃除やプロウ使用の際、走行車に気づかず 清掃物が飛散し、接触する / / / / /	△	△	3	職長は必ず場内全体を監視し、 全体の動きを指示しながら片付けを行う 職長は必ず場内全体を監視し、 警笛等を用いて合図をしながら清掃する / / / / /	○	○	1

特記	1人作業	原則1人作業はしない。やむを得ず1人作業をする場合は現地にてKYを実施し、作業員同士目のつく範囲内で作業を行う。尚且つもしもの時の連絡体制を事前に構築しておく。									
	パワーゲートを使用した荷台積み下ろし	パワーゲートを使い荷台にバルーン等を積み下ろし作業をする時は、積載物の落下またはゲート昇降による手の挟まれ、スライダバーの延伸による足挟まれに注意すること	①パワーゲートを昇降させるときは必ず声を掛け合図を行い、手・足が挟まれないことを確認し安全を確保してから昇降させる。 ②バルーン等のタイヤロックを外す時は、必ず声を掛け合図を行い、保持を確認して安全を確保してからロックを外すこと	声掛け合図を怠り、積載物またはゲートに手足をはさまれて怪我をする	○	×	3	パワーゲートを使用する際は必ず2人以上で作業をし、ゲートの昇降をする場合は声を掛け合い挟まれないように安全を確保してから昇降させる。	○	○	1
	台車を使用する場合	台車を使い小運搬を行う時は、台車の逸走による車両等への接触に注意すること	台車は自動ストッパー機能付とする	台車から離れた瞬間に台車が逸走し走行車両と接触する	△	△	3	使用しない時は裏向きにし、Gr外側など走行車両から遠い位置に仮置き。強風の場合はウェイトを置く。	○	○	1